

本年度テーマ

主体的な学びや協働的な学びをととした学習のあり方について

事業内容

IB教育推進チーム：国際バカロレアの導入に向けた計画について

【概要・目的】

本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、学習の振り返りを中心に協議。

平成28年度の当初計画 (P)

【本年度の取組内容】

- ① MYP 認定申請準備
- ② MYP カリキュラム設計にかかる業務
 - ・ MYP の概要、年間指導計画
 - ・ ユニットプランナーの作成
 - ・ MYP ガイドブック（授業者向け）の作成
 - ・ パーソナルプロジェクトの計画
- ③ IB 教員養成にかかる業務
 - ・ 研修の企画・運営・参加
 - ・ 公式ワークショップへの参加
 - ・ 高知県内での公式ワークショップの企画・運営・参加
- ④ 学校広報にかかる業務
 - ・ 学校説明会、体験授業の実施
- ⑤ 学校の環境整備にかかる業務
 - ・ ICT 環境の整備
 - ・ 成績処理システム
- ⑥ IB との各交渉（候補校前の規制、高額な費用、地方の公立に沿わない書式等）

平成28年度の取り組み状況 (D)

国際バカロレアの導入に向けて
効果的なカリキュラムの検討

- ① MYP 認定申請準備
 - 10月：第1回申請準備に関する打ち合わせ実施→11月11日までに第1次ドラフト(日本語)作成
 - ② MYP カリキュラム設計にかかる業務
 - ・ 2016年10月末までに、全教科中学1年生2ユニットの作成終了。(ユニットプランナーはH28年度内に中学1年生1学期分(ユニット数は教科により異なる)作成予定、H29年度末までに3学年それぞれ最低1学期分作成見込み)
 - ・ MYP の概要 (overview) に合わせて、年間指導計画を作成中。
 - ・ 教員のためのオリエンテーション・ツール(教員向け MYP ガイドブックなど)の企画。(H30年度開校時まで作成)
 - ・ 「プログラムの基準と実践要綱」をもとに、学校内の「協働設計」の在り方について検討
 - ・ 上記の項目については、8月と10月にそれぞれ、玉川大学学術研究所のカメダ・クインシー先生に直接指導を受ける(それらの機会以外にも随時アドバイスをいただいている)
 - ③ IB 教員養成にかかる業務
 - ・ 8月15日・16日 高知県内での公式ワークショップ(MYPの概要について)を実施(参加者：42名 内県内：34)
 - ・ 下記のIB公式ワークショップに参加
 - 8月3日～5日(DPワークショップ、東京学芸国際中等教育学校)(管理職、TOK、数学、生物)
 - 9月22日～24日(MYPワークショップ、玉川大学)(国語、個人と社会、数学、英語、個人と社会、理科、芸術、体育、デザイン)
 - ④ 学校広報にかかる業務
 - ・ 8月15日 IBセミナー(保護者および一般向けIBセミナー、小学5年生対象体験授業)開催
 - ・ 10月23日 IBセミナー(同上)開催
- ※⑤と⑥については、今回は採りあげない。

課題と今後の取り組み (C、A)

課題

- ② MYP カリキュラム設計にかかる業務
 - (1) 「協働設計」に関する課題
MYP の実践の鍵になる「協働設計」
 - ・ 「協働設計」(『プログラムの基準と実践要綱』基準C)
 - ・ 学校に求められる、「協働設計」を実現するための組織的な支援(同文書 基準B)(例)基準B2-4
 - ・ 学校は、教師が協力して授業計画などを策定する「協働設計」(collaborative planning)や「振り返り」(reflection)に専念できる時間を確保すること
 - ↓
 - 下記の点について検討が必要。
 - ・ 協働設計を実現していくために、コーディネーターが中心となって、有効に機能する「文化」を、どのように学校が作り上げていくか
 - ・ 協働設計(特に時間の確保)を実質的に実現し有効なものにするに必要な工夫
 - ・ 学校の支援体制
 - (2) 保護者向けの説明に関する課題
 - ・ これまでのセミナーなどのアンケートから、「一般の中学校との違い」について、特に一般の中学校で習うことが網羅されるのかという点についての質問が寄せられている。
 - ↓
 - ・ MYP の課程全体でどのような学びを実現するかという点の伝え方。
 - ・ 保護者からの「一般の中学校でやることが網羅されているのか」という質問に対して、より丁寧に、かつ誠実に、上記の説明をする際の工夫。

今後の取り組み

- ユニットプランナー作成の過程を共有するためのツールの整備
- ユニットプランナーに合わせた評価課題の整備。
- H29年度のIB公式ワークショップ参加、及び、高知県内でのIB公式ワークショップの開催の準備。その他、研修の年間計画の作成
- 新設校におけるMYPと生徒指導の在り方の検討
「生徒指導においては、自己指導能力の育成が大切である」と繰り返されてきているが(『生徒指導を理解する』国立教育政策研究所)、これをIB教育の中で実現していく具体策を検討する。

【平成28年度 到達目標】

学習の振り返りをし、学習者の習得状況を教員及び学習者にフィードバックする
↓
自分で「課題を発見する力」、「課題を解決する力」、「考える力」を身に付けている。